

2016年8月8日

札チャレラジオ通信 第31回

加納：三角山放送局をお聴きの皆さんこんにちは。札チャレラジオ通信の時間がやってきました。私は今日のパーソナリティーを担当しますNPO法人札幌チャレンジドの加納尚明です。よろしくお願いします。

この札チャレラジオ通信は自立を目指す障害のある方がITでマザル、ハタラク、拓き合う社会を作りたい、そんな思いで活動をしている札幌チャレンジドが毎週月曜日この時間に札幌チャレンジドの活動内容をラジオをお聴きの皆さんに聞いていただきたいなあということによっております。

毎日毎日本当に暑い日が続きまして札幌じゃないみたいな感じもするのですが、今日私はですね非常に快適な空間におりまして、この三角山放送局のスタジオは4畳くらいの小さなお部屋なんですね。放送をやっている関係もあってお部屋が閉め切っていると。そういう関係もあるのでしょうか。実はクーラーがついておりまして。なかなか北海道ね、クーラーのあるところが少ないのですけれども、本当に狭いお部屋でクーラーがしっかりきいていてとっても快適で、何かしゃべっているうちに寝てしまうのではないかと思うぐらい、本当にラジオをお聴きの皆さんきっとですね、今日も熱いなあと思いながら聴いておられると思いますが、こんなところからお伝えをしていきます。

この札チャレラジオ通信、毎週とか以前聴いたことある方はパーソナリティーとアシスタントがいて、さらに毎週毎週ゲストの方をお呼びして、札幌チャレンジドの活動に関わりのある方に来ていただいてその方とのトークを通して、札チャレの活動を知っていただくということによっておるのですが、今日はですねちょっと違うイレギュラーバージョンで、ゲストもアシスタントもおりません。

この4畳半ほどのスタジオにいるのは、私とそれこそスタッフさんが1名ですね、窓越しにおられまして、二人でお伝えするような感じになっておりまして。この番組は1月から始まりまして7ヶ月経ってもう8月です。かなりの分野の方に来ていただいてそれぞれの分野の人を通して札幌チャレンジドのことを聴いていただけるのかなあと思っておりまして、今日はちょっとひねってですね、札幌チャレンジドの生い立ちのところをよく質問されることもあるのでそこのところを少しお話しした後ですね、札幌チャレンジドには今私を含めて11名のスタッフが札幌チャレンジドで働くことを生業としているわけですが、NPO法人札幌チャレンジド、誰も知りませんよね、普通はね。

そういうNPOで自分の職として働いてくれる方がいる、ということは本当にありがたいことだと思っています。その一人一人のスタッフとの出会いであったりそのスタッフがどんな仕事をどんなかたちでやっているのかということ、私なりにスタッフのことを知ってもらいたいと思ひまして、15時30分まで限られた時間ですが一人一人のスタッフのことを少し話してみたいなあと、そんな回にしたいと思っておりますので、ぜひ最後までお付き合いをください。

この札幌チャレンジドの生い立ちのところを少し、それがスタッフの話にも繋がっていきますのでお話をさせていただきます。

札幌チャレンジドは、できましたのは2000年の5月。2000年、今から16年前になります。平成12年5月に札幌チャレンジドっていう団体が市民活動として生まれました。市民活動団体ってというのは世の中たくさんあって、いろいろな活動をされています。まちづくり、地域のためになにかお役に立ちたいという方がそれぞれ仲間が集まって活動をしていく訳ですけども、札幌チャレンジドは障害のある方がITを活用して社会参加と働く支援をしようよってということで仲間が集まりました。

運営委員っていう人が当時、設立の当初ですね、6名いましてその6人が月に2回集まっていろいろな議論をしながら少しずつ活動を作っていました。元々はいわゆるパソコンボランティア団体ってということで障害のある方にとにかくパソコンに触る、触れる、学ぶ機会をつくろうということで大学のパソコン講習会場をお借りして、そこに障害者の方が20人とか30人集まっていたいて皆で一緒にパソコンを勉強する。そんなところから活動が始まってきました。

今でこそ札幌駅の北口、北7条西6丁目の北苑ビルの2階に約137坪のスペースをお借りしてそこにスタッフが11人、毎日札幌チャレンジドで働くために通ってきてる方が約20名、企業へ就職を目指して頑張って毎日勉強してる方も約12名ほどが来られて、ボランティアさんも来られますし、パソコン講習に来られる方もおられますから毎日約40人くらいの方が出入りしているちょっとNPOとしては珍しい大きな組織になっておるのですが、さっき言いました2000年できたころなんにもありません。事務所がある訳でもないし、パソコンすらないと、パソコンを教えたいのにパソコンすらないと、そこで働いてお給料をもらう職員の人もないと、そんな中で皆が自分の仕事をしながら仕事の休みの日であったり夜の日であったりそんな時に集まって活動をつくって来ました。こんなところから始まっています。

そして2年ほど経って少しずつ札幌チャレンジドが行政の仕事をやらせていただくようなこともあったり、企業さんからお仕事もちょっとやらせてもらうとかそんなこともちょっ

とでてきて2年経って2002年に、なんとか一人分、まあ安い、その収入だけではなかなか食っていけないだろうという収入ではあるのですが、なんとか一人、札幌チャレンジドにずっと専従で毎日、札幌チャレンジドに来てもらって仕事をしてもらう、そういうスタッフをやっと置けるようになりました。

会の立ち上げ時からやっていた運営委員の佐藤美由紀さんに、札幌チャレンジドイコール佐藤美由紀さんっていう、今でもそういうふうに、今別なNPOを作っても活躍されていますけれども、そんな札幌チャレンジドの生き字引となる女性が2002年から事務所に机1個おいて電話回線引いて、事務所っていても自前の事務所ではなくて北海道NPOサポートセンターというNPOをサポートするNPOに机を1個置かせてもらって、そこからスタッフ第1号として始めました。

それでは、ここからは、今いるスタッフの紹介に入っていきます。札幌チャレンジドの事務所で一番古株のスタッフがパソコン講習のリーダーをしております飯村富士雄さんです。

飯村さんは平成16年の4月からですから、もう12年前になりますね。札幌チャレンジドのスタッフとして働いていただくようになりました。スタッフ一人一人いろいろな出会い方がありますが、初期の頃のスタッフっていうのはほとんど札幌チャレンジドにボランティアとして関わっていたり、パソコン講習なんかのところから繋がってきた人が多いのですが、飯村さんは札幌チャレンジドと出会う前から、実は札幌チャレンジドのスタッフになる前から札幌チャレンジドとは出会っておられまして、札幌チャレンジドがパソコン講習をやるにあたって、自前ではパソコンの部屋がないので、新札幌に当時パソコンスクールをやっている会社さんがありまして、そこの方と連携をして、その会場を使って、その講師の方に講師になってもらって、私たちは障害のある人に集まってもらって、そこでパソコン講習会をやると、そんなことをやっています。その時にそのパソコンスクールの先生だった人なんです。本当に親切でユーモアたっぷりに教えていただいていたってとっても優しい人がいるのだなあと思っていました。

そのスクールでやらなくなって、自前でパソコン講習会場を持てるようになっていた頃、札幌チャレンジドでいろいろ事業が広がって少し忙しくなって、もうちょっともう一人二人スタッフが欲しいなあっていう時に飯村さんが勤めておられた会社がたまたまその事業をたたむことになった話を聞きまして、飯村さんに、札幌チャレンジドで働かないってお話をしたら、喜んでと言っていて、札幌チャレンジドのスタッフとして働いていただくようになりました。

飯村さんは本当にパソコンに詳しくて、ずっとパソコン講習のところを面倒みていただいているのですが、なかでもですね、視覚障害者の方のパソコンの支援、ここの分野で、私は道

内でナンバー1かナンバー2の存在だと思っけていまして、もうお一方、一人でいろいろなパソコンソフトを販売したり個人の家庭に行つて、インストールをして教えておられるすごい方がおられるのですけど。

本当にその方と飯村さんの2人がきつとこの分野では北海道では極めて高いスキルと障害のある方をよく理解して、障害のある方に寄り添いながらパソコンを教えるというようなことをやつておられまして、今はもう毎日のように視覚障害者の方から札幌チャレンジドに電話がきます。「飯村さんいるかい」つて言つて。「ちよつとパソコンがなんかおかしくなつて分からないことあるから飯村さんに教えてほしいんだよね」つていうような感じですよ。

本当に飯村さんはいろいろなところで頼りにされているのだなあと、だからこの札チャレにこうやつて電話がかかつてきてずつと繋がっているのだなと、そんなふうにしてやつております。

そんなことでなかなかしゃべっているとあつという間に時間が経つもので3時12分になつておられまして、このペースで喋っていると1回では終わらないのがね。少し後半は速く喋つていきたいと思つていますが、12分喋り続けていきますので、ここで、水前寺清子さんの「三百六十五歩のマーチ」という、とつても古い、懐メロなのですが、これを聴いていただきたいのですが、なぜこの曲をかけたかはまた後半でお話させていただきます。ではお聴きください。

加納：はい。水前寺清子さんの「三百六十五歩のマーチ」を聴いていただきました。

どうですよ、若い人はほとんど聴いたことがないと思つたのですが、僕の世代は結構子供の頃によく口ずさんでいた曲で、この曲はですね、人生であつたり市民活動であつたり、札幌チャレンジドのテーマソングだなあとと思つて、三歩進んで二歩下がるつていうことでね。なかなか人生や市民活動では、うまくいかないこともたくさんあります。

ああちよつと進んだと思つたらいきなりちよつと下がつちやつたみたいなきことがあつて、三歩進んで二歩下ると結果的には一歩進んでいるからいいじゃないかつて、休まないで歩けつて、休むことも大切なのですけれども、長い目で見てずつと続けていくつていうことですよ、一歩ずつ一歩ずつ進んでいくつてなにかそんなことを思つたので私は自分の中でちよつと辛いことや、ああだめだなつて思つたようなきがあつた時には心の中で三歩進んで二歩下がるだと思つながら人生はワンツープンチワンツープンチと心の中で言いながら元氣をつけているそんな曲でした。

それではですね本題に戻りましてスタッフの紹介を続けていきたいと思つていますが、あと10分ですから10分で10人を紹介するつていうことは1人1分つてことはありえないの

で、私は確か10月にも私がパーソナリティーをやる機会があるので今日は話せるとこまで話して、今日話せなかったスタッフのことはまた10月に引き続きお話をしたいと思います。

ではいきましょう。次に札幌チャレンジドのスタッフになったのは、佐藤美貴さん。就労グループという、札幌チャレンジドで働くという部門のリーダーをしている佐藤美貴さんは、平成20年2月ですから、佐藤さんも今9年目ということになっています。

札幌チャレンジドができた時から、障害のある方がITを使って働く、働ける社会を作りたいということで、でも今のように事務所に通ってきて企業さんからがっちり仕事をいただいてやれるようなそんなことは全然当初はなくて、たまにホームページを作ったりとか、データ入力の仕事をお願いされると、そんなことだったのですが、じゃあホームページを作るっていてもなかなかそういうスキルのあるスタッフの人がいないと、ちゃんとお客様の期待にこたえるものが提供できない訳です。

札幌チャレンジドが新聞とかメディアによく取り上げられていた時に佐藤美貴さんが、パソコンのデザインがとくに得意で、デザインとかもできるしホームページも作れるのでなにかそういうお手伝いできることがあればということで、ボランティアとして札幌チャレンジドに関わっていただいてなにかそういう佐藤さんの技術が必要な時には佐藤さんに相談をして一緒になってやっていたとそういう関係が、だから札幌チャレのスタッフになる前からボランティアとして関わっていただいてました。

札幌チャレンジドに企業さんからしっかり仕事をいただいてやるものがいくつか出てきた時に、これはそういう仕事をスタッフとして常駐してやってくれる人がいないと駄目だなあと、そういうふうな体制を作りたいと思った時に一番に佐藤さんにお声かけをして、札幌チャレのスタッフとして中に入って企業さんから受ける仕事をマネジメントしてほしいと、そんなところで佐藤さんに入ってもらいました。

佐藤さんが入って9年間、就労継続支援A型ですっとやっていただいている、その9年の歴史が、札幌チャレが今、約3000万円くらいの仕事を企業さんからやらしていただけたようになったのですが、その歴史といっても過言ではなくて、一社一社本当に少しずつ少しずつ積み重ねて約10年間にその規模までなってきました。

その仕事の一番最初のお客さんとのやりとを佐藤美貴さんがやって、それを働きに来ていたメンバーに伝えて仕事を教えたり、後から就労グループに入ってきたスタッフに仕事を引き継いだりと、札幌チャレの就労グループの元締めという立場で、彼女がそのところを本当に丁寧にやってきたから今があると思います。

クライアントである企業さんからの信頼も非常に厚くて、クライアントさん側からもいろいろな相談を受けながら一緒にやっています。企業で働いた経験のある方がそういうところにはないと、我々はNPOといえども企業さんと一緒に仕事をやっていますから、企業さんとの仕事のルール、納期であったり、品質であったり、そういうところの厳しさとか、重要性みたいなことを踏まえてやれないと、企業さんから、じゃあこういうこともやって、ああいうこともやってと追加のお仕事がない訳です。1回やって駄目だったら追加のお仕事はこない訳です。

ありがたいことに札幌チャレンジドの企業のお客様、ほとんどこういうのもどう、とか、これもちょっとやれる人増やしてよ、とかですね、そんなかたちでお声がけをいただいています。そこのところを担当しています。

次はですね、大山珠美さん。大山さんは平成21年9月に札幌チャレンジドのスタッフになりましたから今7年目です。大山さんももう長くなりましたね。大山さんも他のスタッフの人と同じように札幌チャレンジドとは自分がまだ会社で勤められている時からボランティアとして関わっていただいていた。大山さんはパソコンを教えるのが得意で札幌チャレンジドのパソコン講習のボランティアとして関わっていただいていた。

札幌チャレンジドが年々、事業を広げていくなかで、大山さんは最初の頃は札幌市から仕事をやらせていただいている障がい者ITサポートセンターという事業がありまして、障害のある方向けのパソコン講習をやる事業なのですが、そこのところでニーズが高まってきていて事業がどんどん広がっていくなかで、事業の再構築っていうことは必ず出てくる訳です。そういうあっぴあっぴしていた時に大山さんの力を貸して欲しいと入ってもらって、障がい者ITサポートセンターの再構築をやらしてもらいました。

大山さんは再構築プロフェッショナルというかですね、今担当している就職支援のところも立ち上げの段階ではなくて立ち上げて1年たってあっぴあっぴしている中で大山さんの経験がこういう場面で生きるということで、障がい者ITサポートセンターの方はもう落ち着いてしっかり安定して回っていたので、今度は就職支援をやって欲しいということで、就職支援の就労移行支援のグループリーダーになってもらいました。毎年毎年確実に4名ないし5名の就職を実現しているグループリーダーとしてマネージメントをしてもらっています。

とても勉強家で札幌チャレンジドスタッフ11名いる中で、社会福祉士の資格を持っているのは大山さんだけです。大山さんは札幌チャレンジドで勤めながら自分で勉強をして資格も取りたいということで学校に通いながら働いて、スタッフとして資格を取ってくれています。そういう知識が今の仕事に活きていると思います。

後3分ということになりました。もう一人いけますか。林祐樹くん。

林くんは平成24年4月に入りましたから、今年目のスタッフで、就労グループで働いてくれています。

彼もちょっと面白い経緯で、札チャレのスタッフになる1年前に北海学園大学の樽見先生って、この番組にも一度出ていただきましたが、そのゼミ生だったのです。彼は夜間の大学のゼミ生だったので昼間アルバイトをるところを探しているということで、NPOに非常に関心がある若者がいるのだけどどうでしょうねと、樽見先生からご紹介いただいて、そんな若い人で札チャレをスタッフとして手伝ってくれる人がいるのだったらとっても嬉しいということで、1年目はアルバイトで手伝ってくれました。

非常に真面目でコツコツと仕事をするタイプの人で、就労継続支援のところではメンバーの障害者の人と一緒に働いてくれる人が必要だったので、その彼の真面目さ、そういうコツコツ本当に一生懸命仕事と向き合うところを活かしてですね、そういう仕事についてもらっています。

最初は就職支援のところを少しやっていたのですが、やはり彼の持ち前の良さを活かして今はそのところをやってくれていて、結構夜遅くまで残業の時も、メンバーの人と一緒に頑張っています。

彼は、苫小牧から通ってまして、もう札チャレに入って5年目ですか、ずっと朝早く家を出て、家帰る頃には結構、7時8時になっていると思いますが、本当に一生懸命通っていただいて。こういう若いスタッフが、やる気をもって一生懸命働ける職場を作っていかなきゃいけないなあといつも彼を見ながら私は思っております。

今日は、飯村さん、佐藤さん、大山さん、林くん4人の紹介しかできませんでした。今日一回で全員紹介しようと思っていたのですが、なかなか喋り出すと止まりませんね。こんな回もあるということで、また10月に、私がお話する機会がありますので、残りのスタッフも皆一人一人、思いを持って札チャレと出会い、札チャレのことをきっと愛してくれていて、皆で助け合いながら働いてくれています。

これからもそういうスタッフがまだまだ増えていって欲しいと思っておりますが、こんなふうにやっている札幌チャレンジドです。今日はこんな形で加納が一人でお伝えしていきましました。来週はお休みで、再来週はありますのでぜひお聴きください。

今日はどうもありがとうございました。さようなら。